

十日町地域 稲作速報～土づくり～（9/30 発行）

十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会

- 来年に向けた土づくりのため、10月中旬までに稲わらの秋すき込みを行いましょう。
- 稲刈り終了後に漏水箇所を点検し、年内に対策を実施しましょう。干ばつ被害にあったほ場は、秋代かきを実施して、漏水を防ぎましょう。

1 来年に向けた土づくり

- 土づくりを継続的に実践している経営体では、異常高温年でも1等級比率が高い傾向です。（R5 普及センターアンケート結果より）
- 稲わらの秋すき込みは、堆肥施用と同等の土づくり効果が期待でき（図1）、春すき込みに比べ、根腐れの原因となる硫化水素などのワキ発生が軽減されます。稲わらの分解を促進するために、地温が高い10月中旬までに行い、深さは5～10 cmの浅うちとしましょう。

堆肥施用と同等の収量を確保！

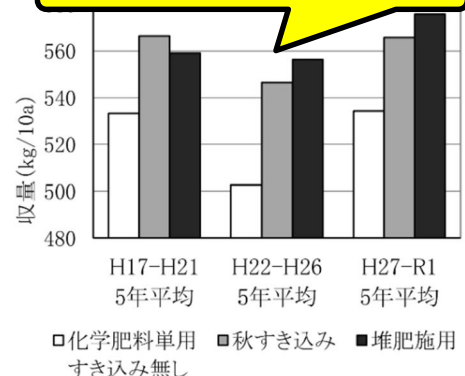


図1 有機物長期連用によるコシヒカリ収量推移（H17年～R元年、農総研基盤）

2 漏水対策

- 干ばつによりほ場に亀裂が入った場合、漏水によって来年の栽培に影響が生じる恐れがあります（図2）。
- 稲刈り終了後に漏水箇所を点検し、年内に漏水対策を実施し、漏水防止効果を高めましょう。

（1）トラクターによる漏水対策

- ・ 秋耕を行った後、排水口・暗渠栓を閉じて雨水や融雪水を保持するよう努める。
- ・ 畦畔際を中心に大きめの亀裂が生じた場合は、亀裂の入っている畦畔際をトラクターで何回か走り、タイヤで土を鎮圧する。
- ・ 可能な限り雨水等を湛水し、丁寧な代かきを2回以上行う。

（2）ベントナイト（土壌資材）による漏水対策

- ・ 下記の順に施用して、漏水箇所を補修する。
 - ① 亀裂の入った畦畔際1m間に対して、ベントナイトを1kg/m²を投入する。
 - ② 作土とよく混ざるようにロータリーで耕起する（深さ15cm程度）。
 - ③ 雨水等を活用し可能な限り湛水して、丁寧な代かきを実施する。
- 春に耕起・代かきを行う場合も、例年に比べて湛水に時間がかかることが懸念されるため、余裕を持った作業計画を立てましょう。

漏水田（水が抜ける田）だと…

- ・ 水をたくさん使うため、用水不足を招く（水不足地域では影響大）
- ・ 田植え後に水がたまりにくいことで、地温が上がらず、初期生育が遅れる
- ・ 肥料成分が流出しやすい
- ・ 除草剤の処理層が保てず、雑草が多発生しやすい

図2 漏水による栽培への影響

十日町農業普及指導センター（作物担当）

TEL 025-757-5516・6061

HP http://www.pref.niigata.lg.jp/tokamachi_nogyo/suito.html



←LINE 水稻情報は
こちらから